

第35回 日本睡眠学会が 名古屋で開催される

今年のテーマは、「学ぼう睡眠学、広げよう睡眠医療」

去る七月一日から二日に、名古屋市中中央区の名古屋国際会議場で日本睡眠学会第35回定期学術集会在催され新潟病院からはセンター長ら三名、みなとみらいクリニックからも三名が参加しました。

今年のメインゲストは米国のスタンフォード大学のギルミノー教授でした。教授は睡眠時無呼吸症候群の名付け親で、今回は、ぐっすりーぷ六月号で解説しました「上気道抵抗症候群」という病気の講演をなされました。「上気道抵抗症候群」は、実は睡眠時無呼吸症候群と同じ昼間の眠気の原因です。目に見える呼吸障害がないので診断が難しく

く、この病気の実際の有病率(どのくらいの人がこの病気にかかっているかの比率)は知られておりませんでした。

今回示された米国での有病率はなんと18%。いびき症全体の有病率は30から40%ですので、その半数が「上気道抵抗症候群」だということです。

睡眠時無呼吸症候群の有病率は10%ですが、もし昼間の眠気を問題にするなら、睡眠時呼吸症候群だけでなく「上気道抵抗症候群」の診断や治療も積極的に行わなければならぬこととなります。ちなみに、この病気の治療法はマウスピースしかありません。

ぐっすりーぷ

Vol.1 No.3
SAS支援会

〒951-8580
新潟県中央区浜浦町1-8
日本歯科大学新潟病院
いびき診療センター内
電話025-267-1500
内線258

**患者が有罪実刑判決
赤信号殊更無視運転致死事件**

睡眠学会の翌日に行われた睡眠呼吸障害研究会で交通違反運転致死事件裁判の弁護を担当した弁護士から事例が報告されました。

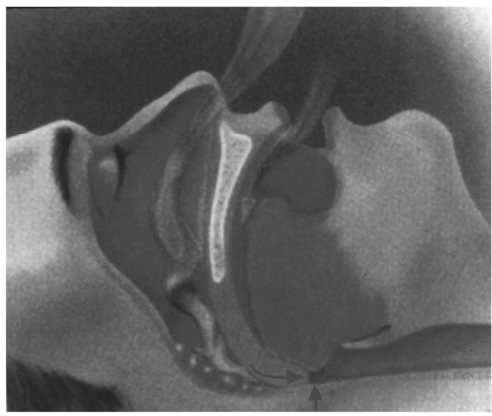
連載 睡眠時無呼吸症候群をとりまく病気
「いびき症 三兄弟」
原因は「顎の骨格」「肥満」、それと「低位舌」

六月号に書きました通り、長男の「睡眠時無呼吸症候群」、次男の「上気道抵抗症候群」、三男の「単純いびき症」の三兄弟の発病する原因は共通しております。今回は、その原因について説明します。

この図は、無呼吸(窒息ともいいます)で息が詰まった状態を示します。この状態になれば、鼻からも口からも息が入りません。詰まっているところ、それは鼻でものどでもありません。口の奥、舌と軟口蓋(俗にのどちんこ)が重なった部分で詰まるのです。

舌が奥に下がった隙間にのどちんこが吸い込まれて無呼吸が起こるので、のどちんこは上顎から垂れ下がり、舌は下顎から垂れ下がって、その原因について説明します。

ろに下がるほど、顎の位置が後ろに下がると、呼吸が起こりやすくなる。



改正道路交通法で睡眠時無呼吸症候群患者は運転免許が失効し、運転を続けるには適切な治療を受けなければなりません。患者には厳しい法律ですが、その反面、睡眠時無呼吸症候群の患者が起こした事故や違反には寛容で、同病が原因と考えられる場合に当事者の責任が回避されるという判例が出ております。今回の事例は、職場の簡易検査で二度にわたり睡眠時無呼吸症候群の疑いの診断を受けたにもかかわらず精密検査を拒否していた被告が、致死事件後に睡眠時無呼吸症候群による免罪を求めた裁判で免罪が認められずに実刑判決を受けたというものでした。もし被告が適切な治療を受けていたらと思うと残念で仕方ありません。

ろに下がるほど、顎の位置が後ろに下がると、呼吸が起こりやすくなる。

顎の位置や形は生まれつきのもの(家族で遺伝します)ですので、これが第一番目の原因になるのです。(次号に続く)

『第35回日本睡眠学会学術大会に参加して』

いびき診療センター 猪子芳美



第35回日本睡眠学会学術大会は、会長講演、愛知国際シンポジウムの他にシンポジウムが25題、パネルディスカッション、ワークショップ、教育セミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナーの他、一般口演51演題、ポスター発表69の演題と広い分野から多くの発表が行われました。

内容は、生活習慣病、メタボリックシンドローム、肥満、睡眠障害、うつ病、不眠、認知症、レストレスレングシンドローム、睡眠時無呼吸症候群などバラエティに富んでおり、不眠・うつ病・自

殺など、日本のストレス社会が抱える問題をどう解決していくか、睡眠医療の果たす役割は大きいと感じました。また今回、アメリカのスタンフォード大学のギルミノー教授が来日され、拝聴した講演の中で、「睡眠医療も治療から予防への流れである」とのお話は、大変印象深く感じられました。歯科矯正や、成長発育、顎顔面の誘導等、歯科界が、今後、睡眠医療に携わる上で、積極的に関わる必要性を痛切に感じ、今以上の努力が必要であると思いました。

私は、シンポジウム『睡眠時ブラキシズムと睡眠障害・歯科的問題との関連』のシンポジストとポスター発表をさせていただきました。今後とも、いびき診療センター

の患者さまの貴重なデーターを広く学会で発表し、睡眠医療の発展に尽くしていきたいと強く考えさせられた学会でした。



名古屋名物 味噌煮込みうどん



学会の楽しみはご当地の名物をいただくことです。この写真は名店「山本屋」の名古屋コーチン入りの味噌煮込みうどんです。名古屋の土鍋の蓋には湯気抜きがないのをご存知ですか？そう、その蓋を小鉢にしてアツアツのうどんを食べるのです。そして、必ずご飯も注文するのが名古屋流の食べ方だそうです。

会員の声

・会長の須田さんは新潟のお笑いクラブで存じております(50代女性)。
こちらでも一緒に頑なんですね。よろしくお願ひします(須田)。



人事消息

ぐっすりーぷ編集部
の新人です。



紙面編集とレポーターを担当します**棒千晶**(むらぎちあき)です。レポーター取材も頑張りますので、よろしくお願ひします(棒)。

誰でも会員

睡眠時無呼吸症候群やその予備軍の単純いびき症や上気道抵抗症候群でお悩みの方なら誰でも会員です。会報の「ぐっすりーぷ」は病院にて無料で配布します。郵送をご希望の方は切手を貼って宛名を書いた封筒をご用意ください。

この事業には、新潟市のこの歯科医院と柏崎市の恩田クリニックよりご寄付をいただきました。

大都市圏を中心に「アーユーサス？」キャンペーンが始まりました
2010SAS広報委員会(テイジン、フィリップス、レスメド社が出資)がホームページ (<http://www.ar-you-sas.jp/>) やJR電車内広告で睡眠時無呼吸症候群(SAS)の啓発キャンペーン

ペーンを始めました。監修は筑波大学大学院教授の佐藤誠先生(新潟大学出身で元上越教育大学教授)で、この先生が高校の後輩であることが当センター長の唯一の自慢だそうです。皆さんも「アーユーサス」と言って患者さんを啓発してください。

編集後記

「アーユーサス?、いびきは体の叫び声」で、私もキャンペーンに協力してみました。いびきが体に毒だなんて知らない人が多いのに驚きました。

事務局では、皆様からのご意見やご質問をお受けしております。どうかご協力のほど、お願い申し上げます。

会員の声を募集中
「ぐっすりーぷ」へのご意見やご要望をお寄せください。

メールでの連絡は
totoya3@po.next.ne.jp